

平成 25 年度研究成果情報

課題名: エツ資源回復方策検討調査

[背景・ねらい]

エツは日本では有明海にのみ生息する特産種と呼ばれる魚種である。筑後川における佐賀県流し刺網漁船による漁獲量は、平成 4～16 年には 32～45 トンあったが、平成 17 年以降、急激に減少し、近年では 2 トン前後となっている。

このため、佐賀県では、エツの資源回復に向けて必要な生物学的知見を得ることを目的として、六角川を中心として様々な調査研究を行っている。

[成果]

- (1) 食性調査: 成長に伴い食性が変化することが明らかとなった(カイアシ類から端脚類・アミ類へと変化)。
- (2) 繁殖生態調査: 六角川での産卵盛期は 7 月であり、複数回産卵を行うことが示唆された。
- (3) 卵・仔稚魚調査: 2012 年 4, 8, 11 月に六角川および早津江川でエツ卵・仔稚魚の分布調査を行った。その結果、8 月には両河川ともに仔稚魚は上流域に分布しており、これまでエツ仔稚魚の分布が明らかにされていなかった六角川においても仔稚魚の分布が確認された(図 1)。六角川では本種の卵も採集されたことから、六角川においてもエツは再生産を行っていることが示唆された。

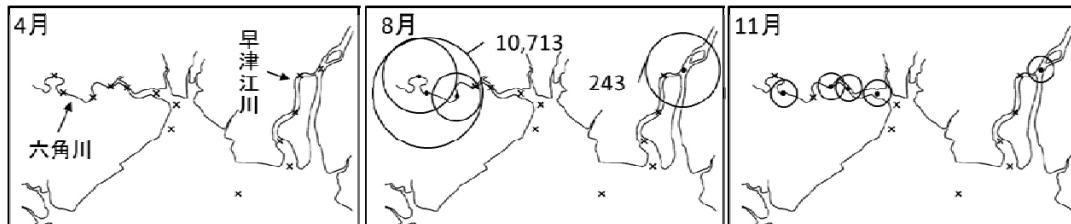


図 1 六角川および早津江川における仔稚魚の分布(稚魚ネット) 0 <1 <10 <100 <1000 ≥1000 個体/m²



[課題・問題点]

雄の詳細な成熟期、雌の詳細な産卵頻度、雌雄の成熟サイズ等が明らかとなっていない。

[今後の対応]

引き続きエツの生態解明のための調査を行う。また、平成 26 年度は耳石による年齢査定を行い、年齢・成長等を明らかにする。

[その他]

研究期間: 平成 25 年～

研究担当者: 資源研究担当 伊藤 毅史

公表: H25 年日本水産学会(秋)口頭発表(有明海湾奥部でのエツの仔稚魚分布の河川間の比較)